

徳本寺 一坂元の蓑首城主・大條家菩提寺一

機関紙「見星」

に読む「大條家」の歴史と「ゆかりの茶室」

2019年10月27日 第13回徳本寺テレホン法話ライブ資料

制作:ゆかりの茶室にひかりを当てるつちやGO
山元「いっ茶」組

No.1

2016年3月1日

平成28年3月1日

(3)

徳本寺坂元移転400年

徳本寺は今から575年前の嘉吉元年(1441)、福島県梁川町大枝村(現在の伊達市梁川町)に、大條公の菩提寺として開創された。大條公の知行替えに伴い、元和2年(1616)に宮城県の現在地である坂元に移転する。徳本寺3世洞観曹大和尚の代である。今年が移転400年ということになる。

当初は坂元南白小路にあつたが、そこで2度火災に遭い、その後現在の寺前に移転。移転年月日は不詳。現本堂は165年前の嘉永4年(1851)に建立されている。

伊達家と徳本寺

歴史上、伊達政宗は2人いる。伊達家9代目と17代目と同じ伊達政宗を名乗る。ただ号は異なり、それぞれ儀山と貞山である。17代貞山公は、こ存じ独眼竜政宗で、仙台の伊達藩主である。

そして、9代儀山公の弟にあたる大條孫三郎宗行が徳本寺を開かれた開基となつている。室町初期の頃である。伊達家から分家して、伊達郡大條邑(現在の福島県伊達市梁川町)に住んだので、大條を姓とし、大條

家始祖となる。

1616年大條8代宗綱の時、現坂元に知行替えとなる。時の藩主は伊達17代貞山公。(1601年に伊達藩を開く)相馬藩に対する最前基地という位置づけだったのである。

その後大條家は代々、坂元の蓑首城主として継承される。そして明治5年大條17代道徳の時、藩主慶邦の命により、伊達姓に復することとなり、伊達宗亮と改称した。それは戊辰戦争後、伊達藩は領地を減らされたが、藩の存続を認められるという戦後処理を行ったのが宗亮であり、その功労によるものという。



伊達宗亮の墓



伊達みきお

その宗亮から4代後の子孫に「伊達みきお」なる人物がいる。今をときめくサンドウィッチマンのその人である。

NHKテレビでそのことが紹介されたものだから、時折そのお墓を訪ねてくる方がいる。サンドウィッチマンは芸能界で天下を取ったと言え

るほどの存在なのだろうか。その影響は少なくない。世が世ならば「みきお」が、徳本寺を支えて、笑い溢れる観光寺になつて、多くの方に参詣した。だいたいいたかもしれない。

肝心のお墓がどこにあるかといえば、徳本寺の墓地内にある。以前は奥まった小高いところであり、樹木に覆われていたので、近寄り難かつた。東日本大震災後、流出した中浜墓地を移転するため、本堂の後ろの境内地を造成して、中浜新墓地となつた。そのため、樹木等がなくなり、いわゆる「殿様のお墓」を、容易に望めるようになった。

現在は大條18代伊達宗康の次男文雄が継いだ姓の内山家子孫が、管理しているお墓である。大條17代伊達宗亮のお墓は、さすがに威容を誇る大きさである。

硯寛院殿竹堂翠雨大居士と諡されている。

因みに、400年前の1616年には、洋の東西で巨星が没している。徳川家康とシェークスピアである。勿論徳本寺の移転と関わりがあるわけではない。ただ、400年という時の流れに思いを馳せるひとつの便にはなる。果たしてこれから先400年後の人に、便となるようなものを徳本寺は残しているだろうか。移転400年という巡り合わせを、大震災からの復興と重ねて、次世代に伝えたいものである。

徳本寺坂元移転400年報恩供養法要

徳本寺は今から576年前の嘉吉元年（1441）、福島県梁川町大枝村（現在の伊達市梁川町）に、大條公の菩提寺として開創された。大條公の知行替えに伴い、元和2年（1616）に坂元に移転する。昨年移転400年を迎えた。

9月22日の大施餓鬼会に併修して、「移転四百年報恩供養法要」を行う。檀信徒に移転の経緯を説明。御詠歌講員による『開山忌御和讃』のお唱えがあった。その2番の歌詞には「岩をば起こし土を掘り 荊棘の谷間を踏み分けて 塗れし汗の幾年か 重ねて精舎は開かれぬ」とある。寺の始まりは、福島県の地であるが、この坂元に移転してからも、一から築きあげなければならなかったはずである。初代と同じ難儀をして、第3世洞観曹大和尚の代に移転が成ったのである。

坂元村誌によれば、当初の寺は現寺前の地ではなく、南白小路にあった。そこで貞享2年（1685）と安永5年（1776）の2度火災があり、その後寺前に移転したという。



お供えの儀式

現本堂は、嘉永4年（1851）に建立されている。

それやこれやの先人の労苦に思いを馳せ、恩に報ゆるお香を一片焚き、感謝の誠を捧げた。

この度の東日本大震災は元より、江戸時代の飢饉や幾たびかの戦争を経ての400年である。その都度、筆舌に尽くし難い困難を乗り越えて、家を守り、故郷を耕し、寺を護持してきたご先祖の汗と涙の歴史があったのである。

東日本大震災からの復興がまた完遂したわけではないが、新しい歴史の始まりだったと子孫から思われるようでありたい。

台掌

「大條家ゆかりの茶室」 保存を！

坂元の大條公の要害裏首城の近くに、大條家ゆかりの茶室がある。伝承に、伊達家が秀吉より拝領したとある。後に大條家が伊達家より下賜され、昭和7年に現地に移築された。町指定文化財であるも、老朽化が甚だしく、大震災で著しく損傷し、存亡の危機である。今修復保存しなければ取り返しのつかないことになる。町内外の専門家を含めた有志で「ゆかりの茶室にひかりを当てるつちやGO 山元『いいつ茶』組」を設立し、保存活動を開始。徳本寺ともゆかりの深い茶室です。震災から復興へ向かう中で、新たな町の活性化につながるはずですので、みなさまのご理解ご協力をお願いします。



老朽化しているゆかりの茶室
＝大條家ゆかりの茶室の保存と活用を願う会撮影

位牌室にお参りしましょう

- ◆ 本堂後方にある位牌室に各家の位牌が安置されています。
 - ◆ 毎朝、住職が各家先祖代々の供養を行っています。
 - ◆ ご年始・お盆・お彼岸等お寺参りの際には、各家の位牌の前で手を合わせましょう。
 - ◆ まだお位牌を安置されていない方は、徳本寺までご相談ください。
- ◎ 徳本寺歴代住職のお位牌・開基家（大條家歴代城主）のお位牌も安置されています。



大條家位牌

第1065話です。

「茶席のごちそうは掛け軸です」と、石州清水流の茶席の時に教えていただきました。石州清水流は仙台の伊達藩の茶道を司った流派です。床の間に掲げられた掛け軸は、家元に伝わる伊達藩最後の殿様である伊達慶邦(よしくに)の書です。「萬寿無疆(ばんじゅむきょう)」即ち「限りなく長命で平和でありますように」という言葉でした。14代家元清水道玄様が、直々にお持ちになられたのです。7月16日に徳本寺で行われた「大條家ゆかりの茶室の勉強会」の時のことです。

大條家は伊達家と縁戚にあり、伊達藩の要職を担いつつ、ここ坂元を治めていました。徳本寺の開基家でもあります。天保3年(1832)大條道直は、伊達藩の後継者問題で功績を挙げたため、伊達斉邦(なりくに)から、茶室を下賜されました。この茶室は伊達政宗が豊臣秀吉からいただいたという言い伝えがあるほどのものです。ただ専門家の建築としての見立てでは、そこまで古くはないようですが、伊達藩の茶の湯文化を伝える茶室としては、現存する唯一のものということです。

当初は仙台城から、大條家の仙台の屋敷に移築されました。その後、昭和7年に坂元の地に移されました。現在は町指定文化財となっていますが、管理が万全でなかった上、東日本大震災の揺れで、大きな被害を受けました。しかし、町全体が甚大な被害があったため、これまで文化財の修復にまでは至りませんでした。そのような中で、茶室の文化財的価値を知る専門家や有識者の間からは、早急な修復の必要性が訴えられていました。

そこで、茶室の保存と活用を願って「ゆかりの茶室にひかりを当てるっちゃGO 山元『いい茶』組」が組織されました。その企画を受けてNPO法人ポラリスの主催で、茶室の価値を再認識して、伊達藩の茶の湯の文化にも直接触れる機会を持ったわけです。専門家の報告によれば、茶室は様々な増改築の経緯があり、正確な築年代の特定にはさらなる検証が必要とのこと。ただ、桃山時代の部材の存在の可能性も秘めており、随所に意匠を凝らした書院風茶室として数少ないすぐれた遺構であるとお墨付きもいただきました。

茶席では武士の茶道と言われる石州清水流の、一挙手一投足流れるようなお点前のお茶をいただき、伊達家そして大條家の歴代の殿様に思いを馳せました。幕府崩壊の動乱の中、伊達家最後の殿様として、「萬寿無疆」と揮毫して、石州清水流に伝えた思いはどこにあったのでしょうか。現代で刀を持つ武士はいませんが、茶の湯の文化は、綿々と受け継がれてきています。作法はその通りですが、茶の湯の文化の象徴として、大條家ゆかりの茶室を残していかなければならないと強く感じました。戦乱も大震災も見つめて、その生き証人のようにして辛うじて存在している茶室です。「萬寿」の思いを込めて、百年先二百年先に伝えるために、保存に力を尽くせるのは、今の私たちをおいて誰もいない茶、ということではないでしょうか。



「萬寿無疆」 伊達慶邦 書

「大條家ゆかりの茶室」保存を！ — 歴史的に貴重な茶室の勉強会を開く —



養生カバーが施された茶室

徳本寺は今から57年前の嘉吉元年（1441）に、大條公の菩提寺として開かれた。その大條公は仙台藩に仕えていた。功あり天保3年（1832）に、大條15代道直が12代仙台藩主伊達斉邦から茶室を下賜された。その茶室は伏見城の遺構で、伊達政宗が秀吉より拝領したとの伝承もある

【※①】。当初は仙台にあったが、昭和7年大條公の養首城社のある山元町坂元に移転。木造平屋の書院風茶室で、仙台藩の茶の湯文化を伝える唯一の遺構であり、県下最古の歴史的にも貴重な建物である。現在は山元町指定文化財となっている。残念ながら、老朽化に加え、東日本大震災により著しく損傷している。町の復興を思うとき、震災によって歴史的建造物が多く失われた中で、何とか乗り越えたこの茶室を今修復保存することも、復興への道のり信じ、保存運動が立ち上がった。

一昨年秋に「ゆかりの茶室に光を当てるつちやGO 山元『いい茶組』が発足した。（発起人：岩佐大輝 庄司アイ 三浦寛也 早坂文明 代表：清水ますみ）茶室が元の姿に戻ったら、私達も町も、もっと元気になれる。茶室の修復と保存を実現し、ステキな活用を夢見、考える山元町民の会である。昨年7月16日徳本寺において、「いい茶」組が企画し、NPO法人ポラリス主催にて、「とことん味わう江戸時代の大條家ゆかりの茶室」という勉強会が開かれた。当日は住職より、徳本寺と大條家並びに伊達家との関係について、山形大学永井康雄教授（建築史）は、ゆかりの茶室の歴史的価値について、

やまもと民話の会代表庄司アイさんの茶室に伝わる話など、多岐にわたって茶室に光を当てる勉強が行われた。更には、伊達藩の茶道を伝える石州清水流家元清水道玄さんによる伊達藩の茶道についてのお話とお点前を披露していただいた。



勉強会

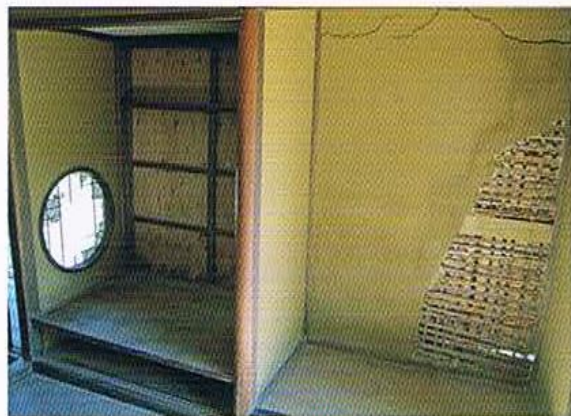
参加者からは、「地元にながら知らないことはかりで恥ずかしくなりました。こんなゆかりの地に住んでいることが幸せです。埋もれている山元の魅力をもっと発信してほしい。官民一体となつての保存が大切です」などの感想が寄せられた。是非、これからの本格的な修復保存に向けて、みなさんのご理解ご協力をお願いします。

位牌堂に お参りしましょう

- ◆ 本堂後方にある位牌堂に各家のお位牌が安置されています
- ◆ 毎朝、住職が各家先祖代々の供養を行っています
- ◆ ご法事・ご年始・お盆・お彼岸等お寺参りの際には、各家のお位牌の前で手を合わせましょう
- ◆ まだお位牌を安置されていない方は、徳本寺までご相談ください
- ◎ 徳本寺歴代住職のお位牌・開基家（大條家歴代城主）のお位牌も安置されています

- 【※①】 文書記録が発見されていない上、移築改築の経緯があるので、桃山時代の遺構そのままではなく、江戸時代末期の建築というのが妥当だろう。正確には更なる検証が必要、というのが専門家の見解である。
- 【※②】 平成29年の主な経過
 - ・ 1月 山元町長に修復保存の要請、署名・寄付金を手渡す。
 - ・ 4月 養生カバーの予算化決定9月完成
 - ・ 9月 朝日新聞文化財団からの助成金100万円決定
 - ・ 12月15日 東日本放送「夕方LIVE！キニナル」で「ゆかりの茶室」の特集を放映（連続予定）

「大條家ゆかりの茶室」保存を！ —歴史的に貴重な茶室の公開に向けて—



現在の茶室内部

徳本寺の開基家・蓑首城主大條公が、仙台藩主から江戸末期に賜ったゆかりの茶室は、仙台藩の茶の湯文化を伝える唯一の遺構であり、県下最古の歴史的にも貴重な建物である。現在は山元町指定文化財となっている。

残念ながら、老朽化に加え、東日本震災により著しく損傷している。町の復興を思うとき、この茶室を今修復保存することも、復興への道のりと信じ、保存運動が行われている。

平成28年秋に「ゆかりの茶室に光を当てるつちやG〇 山元『いいつ茶』組」が発足。（住職も発起人の一人）また、昨年夏には山

元町においても、町指定文化財茶室等整備・活用検討委員会（住職も委員の一人）を設置した。町は22年度の茶室公開を目指し検討を進めている。

そして昨年6月に同町坂元のおもだか館【※】で、茶室をテーマにしたフォーラムが開かれた。（山元『いいつ茶』組・町ふるさと学習会共催）町内外から約170人が参加。元仙台博物館館長の佐藤憲一氏や大條家20世伊達宗行氏等より、茶室にまつわる貴重な話を伺った。茶室の歴史的価値や保存活用の重要性を改めて認識した。

当日のアンケートにも、地元の宝、山元町を誇りに思うなどの感想があった。文化財は活用しながら残していくということ、今後実現していかなければならない。

更に11月には、仙台市のせんたいメディアテークでも、ゆかりの茶室を紹介する機会があった。日本建築家協会東北支部宮城地域会・山元『いいつ茶』組が共催した「アークテックウィーク」の一環としての催しだ。伊達宗行氏は「茶室は仙台藩の文化人が出入りをした当時のカルチャーセンターであった」と紹介した。仙台藩茶道家元の石州清水流の茶席も開かれ、参加者は茶の湯を楽しむながら、ゆかりの茶室が山元町にあり、現存していることに驚いているようだった。

【※】「おもだか」は、大條家の家紋でもあり、坂元小学校の校章にもなっている。

山元・大條家茶室由来探る

仙台で講演会 80人参加

仙台市山元町の大條家ゆかりの茶室について、山元町立歴史民俗資料館で11月1日、山元町歴史民俗資料館で講演会が開かれた。山元町歴史民俗資料館館長の大條宗行氏が講演した。約80人が参加した。

石州清水流 お点前披露

大條家ゆかりの茶室の由来について、山元町立歴史民俗資料館で11月1日、山元町歴史民俗資料館で講演会が開かれた。山元町歴史民俗資料館館長の大條宗行氏が講演した。約80人が参加した。



講演会では、大條家ゆかりの茶室の由来について、山元町歴史民俗資料館館長の大條宗行氏が講演した。約80人が参加した。